



全障研第40回全国大会

2006年7月28日(金)～30日(日)

来年、古都・奈良でお会いしましょう!

全障研大会は40回を迎えます

第40回全国大会準備委員会委員長 玉村公二彦

全障研北海道大会参加の皆さん、ご苦労さまでした。北海道の幸ばかりでなく、全国の仲間の皆さんの元気もいただき、充実した2日間を過ごされたと思います。

この北海道大会の成果を実践や研究で来年につなぎ、より発展させて、奈良で行われる大会に持ち寄っていただければと考えています。過ごしやすい北海道とは少し違って、奈良は気温も少々「暑い」ですが、それぞれの思いと発達保障の実践を「熱く」語りあえる大会にしたいと願っております。

奈良は歴史と伝統を重んずる土地柄です。全障研の40周年を迎えて、全国的にも障害者運動や実践の歴史と伝統の底力を発揮することが期待されています。全国の皆さんの一人でも多くのご参加・ご協力をよろしくお願いいたします。

充実した3日間

ウラ面に「アピール」

大会参加者に感謝

♪♪♪♪♪
 全体会会場となってる千歳高校ではスペシャルトーク「ちょっと青空 マサヒロさんからシズエさんへ」が始まりました。約800名の方がトークに聞き入っています。
 ♪♪♪♪♪
 13時10分、椅子席がほぼ満席になりましたが、そのような状況でも、みなさんできるだけ前のほうへ行こうと席を探しています。
 ♪♪♪♪♪
 この後、青少年自立支援センター「ビバの会・ビバハウス」代表安達俊子さんの記念講演、「大会まとめ」「アピール」「次大会引継」で、すべての日程が終了します。
 ♪♪♪♪♪



全体会がはじまった千歳高校体育館

アピール

やわらかな響きのミュージックベル、一体感あふれる和太鼓、力強いリズムのヨサコイなど、手づくりの前夜祭で心和むひとときをすごし、7月30日、全国障害者問題研究会第39回全国大会が開幕しました。

北の国から思いをとどける
——平和・人権・発達保障をみんなの手で

このテーマのもと、全国からボランティアを含め総勢2000名の参加者が、40をこえる分科会に分かれて話し合いました。

分科会では、障害のちがいを、地域のちがいをこえ、生涯を見通した発達保障の取り組みが話し合われました。

軽度発達障害の学習講座と分科会は、障害を理解し、具体的な対応について学ぼうとする参加者で、会場はあふれました。

障害の重い人の分科会では、通園施設や学校教育、成人施設などから実践が報告されました。いのちを守る日々を重ねていくことの大切さを学びあいました。

地元・北海道では、地下鉄ホームの安全対策、冬場の障害者の移動対策にねばり強く取り組みつづけてきました。こうした改善がなされると、だれにとっても暮らしやすい社会が実現するでしょう。

現在、参議院では「障害者自立支援法」が審議されています。この法律は、福祉サービスの利用に対して、障害者と家族に1割の費用負担を強いるものです。このまま法案が成立するならば、生活の見通しがもてなくなってしまう。いま利用しているホームヘルプの時間を減らさなければならず、障害の重い人ほど負担が増えます。

同時に、子どもと大人を同じサービス体系にするという自立支援法は、児童福祉法との精神と矛盾します。何十倍もの医療費を支払うことになれば、治療の機会を失う子どもがでるでしょう。補聴器や車いすを作りなおすことをためらえば、障害を軽減することができなくなってしまいます。

私たちは、障害者と家族の生活実態にもとづいた徹底した国会審議を求めるものです。

戦後60年の今年、憲法が改悪されようとしています。平和なくして障害者の人権は保障されません。憲法を守ることと、障害者の権利を保障することをめざして、幅広い人たちと共同の取り組みをすすめていきましょう。

2005年7月31日
全国障害者問題研究会第39回全国大会

